

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月11日
【四半期会計期間】	第4期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	株式会社やまびこ
【英訳名】	YAMABIKO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 永尾 慶昭
【本店の所在の場所】	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
【電話番号】	(0428)32 - 6111（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 瀬古 達夫
【最寄りの連絡場所】	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
【電話番号】	(0428)32 - 6111（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 瀬古 達夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第3期 第1四半期連結 累計期間	第4期 第1四半期連結 累計期間	第3期
会計期間	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 6月30日	自 平成23年 4月1日 至 平成23年 6月30日	自 平成22年 4月1日 至 平成23年 3月31日
売上高 (百万円)	21,530	23,183	83,381
経常利益 (百万円)	324	1,698	2,570
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失() (百万円)	60	1,299	1,311
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	209	1,494	155
純資産額 (百万円)	25,321	25,459	24,300
総資産額 (百万円)	80,532	82,379	73,690
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額 (円)	5.56	135.48	123.01
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.1	30.6	32.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,568	2,028	1,068
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	143	289	1,466
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,969	3,862	548
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	6,284	5,621	4,053

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3 第3期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、潜在株式が存在しないため記載していません。第3期及び第4期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

4 第4期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

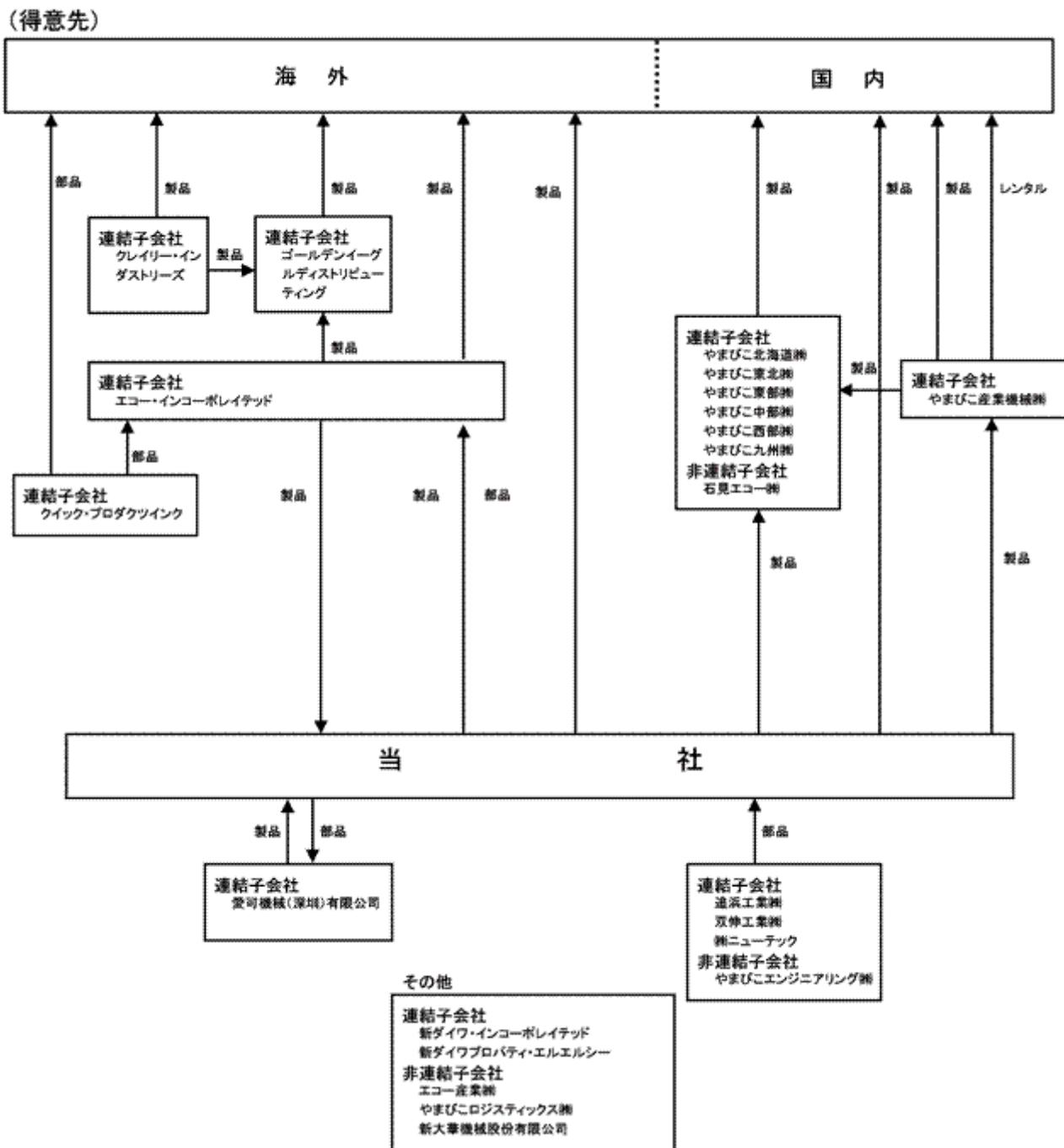
5 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、完全子会社であったやまびこレンテックス株式会社は平成23年4月1日をもって完全子会社であるやまびこ産業機械株式会社と合併しました。

当社グループの事業の系統図は次の通りであります。

2011年6月30日現在



第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く経営環境は、国内においては、農業機械市場が大震災の直接的被害のみならず、原発事故による放射能および風評被害の影響によって需要が落ち込みましたが、建設機械市場は震災の復旧・復興に伴い需要が拡大しました。

海外は、リーマンショックによる世界的な景気後退以降、回復基調で推移してきた屋外作業機械市場が最大市場である米国の天候不順や、欧州における財政問題に伴う市場経済の混乱などの影響によって市況は総じて低調に推移しました。

また、為替相場は、前期に比べて対ユーロは期間中盤から円安に転じましたが、対ドルは期間を通して円高で推移しました。

このような環境の下、当社グループは、震災の影響によって生じたサプライチェーンの混乱に対応するため生産計画の見直しや仕入先との調整を行うなど生産・物流体制の立直しを図り、製品・部品の安定供給に努めました。

販売面においては、国内では排出ガス規制をクリアした環境性・経済性に優れたエンジン搭載機種種の販促活動としてC&G(クリーン&グリーン)キャンペーンを開始し、海外向けには世界中のどの生産拠点においても統一された“やまびこ品質基準”の下で生産される当社エンジン製品が誇る最高水準の品質を訴求する「JAPAN Technology」と銘打ったプロモーションを実施するなど積極的に拡販活動を展開しました。

また、前期に引き続き経費削減に取り組むなどグループをあげて総原価低減に努め、収益の確保も図りました。

更に、一般産業用機械分野の販売子会社であるやまびこ産業機械株式会社とやまびこレンテックス株式会社を平成23年4月1日に合併し、国内販売力の強化と業務・資産の効率化を図りました。

以上のような事業活動を展開した結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループ連結業績は、次のとおりとなりました。

[売上高]

当第1四半期連結累計期間の売上高は、震災および円高の影響があったものの国内外ともに概ね堅調に推移し、231億83百万円(前年同四半期比7.7%増)となりました。その内訳は、国内売上高が106億66百万円(同12.6%増)、米州の売上高は91億54百万円(同0.9%増)、米州以外の海外売上高は33億62百万円(同12.6%増)となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

小型屋外作業・農業用管理機械

売上高は、165億87百万円(前年同四半期比1.2%増)となりました。

・小型屋外作業機械

国内は、震災の影響や春先の低温によって刈払機の動きが鈍く苦戦しましたが、チェーンソーや動力散布機をはじめとした小型防除機、およびエンジンカッターなどが伸長し前期を上回る売上を確保しました。

海外は、主力の北米市場で天候不順の影響によって一部刈払機の販売に出遅れが見られましたが、パワーブロワーが大きく伸長したことや、欧州において、ロシア、フランスが伸長したことなどで販売は好調に推移しました。ただし、円換算の売上高は円高により前期並みに留まりました。

その結果、売上高は119億19百万円(前年同四半期比0.6%増)となりました。

・農業用管理機械

国内は、東北地区を中心に震災による買い控えの影響があったものの、前期に引き続き北海道でブームスプレーヤーが伸びたことや省力・安全機械として普及が進んだ畦草刈機が好調を維持したことなどで売上高は前期を上回りました。

米国の農業機械製造および販売子会社は、大豆、ジャガイモの価格上昇を背景に販売が好調で、前期に比べて売上が伸長しました。

その結果、売上高は46億67百万円(前年同四半期比2.8%増)となりました。

一般産業用機械

震災復旧・復興に伴う建設機械の需要増加に加え、非常時における予備用機材としての需要などもあって発電機、溶接機、投光機が伸長し、売上高は前期に比べて大幅に増加し21億71百万円(前年同四半期比75.9%増)となりました。

その他

売上の大半を占めるアクセサリおよびアフターサービス用部品が国内外ともに好調で、売上高は44億24百万円(前年同四半期比13.4%増)となりました。

[損益]

営業利益は円高による利益率の低下はありましたが、売上の増加、原価低減、未実現利益の減少などにより前年同四半期に比べ大幅な増益となる17億30百万円（前年同四半期営業利益比11億53百万円増）となりました。

経常利益は16億98百万円（前年同四半期経常利益比13億73百万円増）、四半期純利益は12億99百万円（前年同四半期純利益比13億60百万円増）となり、いずれも前期に比べて大幅に改善しました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて86億88百万円増加し823億79百万円となりました。

その主な要因は、季節的要因により受取手形及び売掛金の増加59億34百万円、商品及び製品の増加16億1百万円、現金及び預金の増加15億67百万円等によるものです。

負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて75億29百万円増加し569億20百万円となりました。

その主な要因は、借入金の増加43億67百万円、支払手形および買掛金の増加21億3百万円等によるものです。

純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて11億58百万円増加し254億59百万円となりました。

その主な要因は、利益剰余金の増加9億63百万円、為替換算調整勘定の増加1億58百万円等によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.1ポイント減少し、30.6%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間におけるキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益17億26百万円、仕入債務の増加21億39百万円がありましたものの、売上債権の増加57億96百万円、たな卸資産の増加13億26百万円等により、20億28百万円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得5億25百万円、有形固定資産の売却2億79百万円等により、2億89百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の増加44億69百万円、配当金支払3億35百万円、長期借入金の返済2億55百万円等により、38億62百万円の収入となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて、15億67百万円増加し56億21百万円となりました。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上および財務上の対処すべき課題について、重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、9億41百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,027,107	11,027,107	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	11,027,107	11,027,107		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	-	11,027,107	-	6,000	-	1,500

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,434,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,399,700	93,996	
単元未満株式	普通株式 192,807		単元(百株)未満の株式
発行済株式総数	11,027,107		
総株主の議決権		93,996	

(注)1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に保有していない株式100株が含まれております。なお、「議決権の数」の欄には、株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に保有していない議決権の数1個が含まれておりません。

2. 「単元未満株式」の欄には自己株式が含まれております。自己株式の数は、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に保有していない株式123株のうちの単元未満株式23株と、当該株式を除いた自己株式1,434,683株のうちの単元未満株式83株を合算した106株であります。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社やまびこ	東京都青梅市末広町一 丁目7番地2	1,434,600		1,434,600	13.01
計		1,434,600		1,434,600	13.01

(注)上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に保有していない株式が100株(議決権の1個)があります。当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄に含まれております。但し、「完全議決権株式(その他)」「議決権の数」には当該株式に係る議決権の数1個を含めておりません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,053	5,621
受取手形及び売掛金	14,261	20,196
商品及び製品	21,450	23,052
仕掛品	935	889
原材料及び貯蔵品	5,735	5,754
その他	1,902	1,791
貸倒引当金	259	285
流動資産合計	48,079	57,020
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,009	7,770
土地	8,918	8,848
その他(純額)	5,139	5,199
有形固定資産合計	22,067	21,819
無形固定資産	575	553
投資その他の資産		
その他	3,997	4,008
貸倒引当金	1,027	1,022
投資その他の資産合計	2,969	2,986
固定資産合計	25,611	25,359
資産合計	73,690	82,379
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,295	17,398
短期借入金	18,238	22,843
1年内返済予定の長期借入金	2,222	2,066
未払法人税等	284	295
引当金	-	669
製品保証引当金	648	705
その他	3,321	3,700
流動負債合計	40,009	47,679
固定負債		
長期借入金	3,406	3,324
退職給付引当金	3,688	3,611
環境対策引当金	34	34
その他	2,250	2,270
固定負債合計	9,381	9,241
負債合計	49,390	56,920

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,000	6,000
資本剰余金	9,584	9,584
利益剰余金	12,296	13,260
自己株式	1,467	1,468
株主資本合計	26,413	27,376
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	303	295
繰延ヘッジ損益	7	2
為替換算調整勘定	2,622	2,463
その他の包括利益累計額合計	2,327	2,170
少数株主持分	214	252
純資産合計	24,300	25,459
負債純資産合計	73,690	82,379

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	21,530	23,183
売上原価	15,894	16,267
売上総利益	5,635	6,916
販売費及び一般管理費	5,058	5,185
営業利益	576	1,730
営業外収益		
受取利息	21	9
受取配当金	45	39
その他	83	85
営業外収益合計	150	134
営業外費用		
支払利息	104	92
為替差損	295	58
その他	3	16
営業外費用合計	402	166
経常利益	324	1,698
特別利益		
貸倒引当金戻入額	40	-
固定資産売却益	0	58
特別利益合計	40	58
特別損失		
固定資産売却損	2	6
固定資産除却損	1	15
投資有価証券評価損	173	-
その他	42	7
特別損失合計	220	30
税金等調整前四半期純利益	144	1,726
法人税、住民税及び事業税	417	454
法人税等調整額	215	51
法人税等合計	202	402
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	58	1,323
少数株主利益	2	24
四半期純利益又は四半期純損失()	60	1,299

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	58	1,323
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	174	7
繰延ヘッジ損益	10	5
為替換算調整勘定	11	172
その他の包括利益合計	151	171
四半期包括利益	209	1,494
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	202	1,456
少数株主に係る四半期包括利益	7	38

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	144	1,726
減価償却費	681	628
退職給付引当金の増減額(は減少)	134	77
貸倒引当金の増減額(は減少)	62	14
受取利息及び受取配当金	67	48
支払利息	104	92
投資有価証券評価損益(は益)	173	-
賞与引当金の増減額(は減少)	642	669
売上債権の増減額(は増加)	3,039	5,796
たな卸資産の増減額(は増加)	54	1,326
仕入債務の増減額(は減少)	1,197	2,139
未収消費税等の増減額(は増加)	169	576
その他	440	162
小計	2,199	1,564
利息及び配当金の受取額	67	49
利息の支払額	71	87
法人税等の支払額	365	421
災害損失の支払額	-	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,568	2,028
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却による収入	100	-
有形及び無形固定資産の取得による支出	826	525
有形及び無形固定資産の売却による収入	9	279
信託受益権の売却による収入	597	-
その他	24	42
投資活動によるキャッシュ・フロー	143	289
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	4,563	4,469
長期借入金の返済による支出	255	255
配当金の支払額	326	335
その他	12	16
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,969	3,862
現金及び現金同等物に係る換算差額	89	24
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,167	1,567
現金及び現金同等物の期首残高	5,116	4,053
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,284	5,621

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間
(自平成23年4月1日
至平成23年6月30日)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間において、完全子会社でありましたやまびこレンテックス株式会社は平成23年4月1日をもって完全子会社であるやまびこ産業機械株式会社と合併いたしました。これによりやまびこレンテックス株式会社は連結の範囲から除外しております。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間
(自平成23年4月1日
至平成23年6月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)																																
<p>1 偶発債務</p> <p>次に掲げるものの借入金等に対し保証をしておりません。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">やまびこ東部農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">193 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ東北農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">170 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ中部農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">105 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ北海道農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">104 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ西部農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">88 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ九州農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">68 百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員持家ローン等</td> <td style="text-align: right;">39 百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">768 百万円</td> </tr> </table>	やまびこ東部農機商業協同組合	193 百万円	やまびこ東北農機商業協同組合	170 百万円	やまびこ中部農機商業協同組合	105 百万円	やまびこ北海道農機商業協同組合	104 百万円	やまびこ西部農機商業協同組合	88 百万円	やまびこ九州農機商業協同組合	68 百万円	従業員持家ローン等	39 百万円	計	768 百万円	<p>1 偶発債務</p> <p>次に掲げるものの借入金等に対し保証をしておりません。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">やまびこ東北農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">160 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ東部農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">115 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ北海道農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">113 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ中部農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">105 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ西部農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">71 百万円</td> </tr> <tr> <td>やまびこ九州農機商業協同組合</td> <td style="text-align: right;">61 百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員持家ローン等</td> <td style="text-align: right;">37 百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">664 百万円</td> </tr> </table>	やまびこ東北農機商業協同組合	160 百万円	やまびこ東部農機商業協同組合	115 百万円	やまびこ北海道農機商業協同組合	113 百万円	やまびこ中部農機商業協同組合	105 百万円	やまびこ西部農機商業協同組合	71 百万円	やまびこ九州農機商業協同組合	61 百万円	従業員持家ローン等	37 百万円	計	664 百万円
やまびこ東部農機商業協同組合	193 百万円																																
やまびこ東北農機商業協同組合	170 百万円																																
やまびこ中部農機商業協同組合	105 百万円																																
やまびこ北海道農機商業協同組合	104 百万円																																
やまびこ西部農機商業協同組合	88 百万円																																
やまびこ九州農機商業協同組合	68 百万円																																
従業員持家ローン等	39 百万円																																
計	768 百万円																																
やまびこ東北農機商業協同組合	160 百万円																																
やまびこ東部農機商業協同組合	115 百万円																																
やまびこ北海道農機商業協同組合	113 百万円																																
やまびこ中部農機商業協同組合	105 百万円																																
やまびこ西部農機商業協同組合	71 百万円																																
やまびこ九州農機商業協同組合	61 百万円																																
従業員持家ローン等	37 百万円																																
計	664 百万円																																

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
<p>1 当社グループの主力製品は、主として第1四半期から第2四半期に集中して需要が発生する傾向があります。そのため、売上高に季節的変動がみられ、第1四半期及び第2四半期に高くなる傾向にあります。</p>	同左

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在)
現金及び預金勘定 6,284百万円	現金及び預金勘定 5,621百万円
現金及び現金同等物 6,284百万円	現金及び現金同等物 5,621百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年5月31日 取締役会	普通株式	326	30.00	平成22年3月31日	平成22年6月14日	資本剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月30日 取締役会	普通株式	335	35.00	平成23年3月31日	平成23年6月13日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	小型屋外作業・ 農業用管理機械	一般産業用機械	計			
売上高						
外部顧客への 売上高	16,392	1,235	17,627	3,902	-	21,530
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	12,143	916	13,060	1,388	14,449	-
計	28,536	2,151	30,688	5,291	14,449	21,530
セグメント利益 又は損失()	765	114	650	959	1,033	576

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にアクセサリおよびアフターサービス用部品の販売に係わる事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 1,033百万円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	小型屋外作業・ 農業用管理機械	一般産業用機械	計			
売上高						
外部顧客への 売上高	16,587	2,171	18,759	4,424	-	23,183
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	11,359	1,553	12,912	1,341	14,254	-
計	27,946	3,724	31,671	5,766	14,254	23,183
セグメント利益	1,254	60	1,315	1,458	1,044	1,730

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にアクセサリおよびアフターサービス用部品の販売に係わる事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 1,044百万円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	5円56銭	135円48銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (百万円)	60	1,299
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	60	1,299
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,876	9,592

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成23年5月30日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(1) 配当金の総額 : 335百万円

(2) 1株当たりの金額 : 35円00銭

(3) 支払請求の効力発生日および支払開始日 : 平成23年6月13日

(注) 平成23年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月10日

株式会社やまびこ
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	福田 光博 印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	澁江 英樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社やまびこの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社やまびこ及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。